



## 「津崎・熊谷裁判」事実はこちらだ！⑥ 被告らが主張する定期委員会後の 緊急常任委員会が存在しない！

一旦嘘をつく、嘘がばれないようにまた嘘をつくというスパイラルに陥っているのが被告らとJR総連指導部です。その出発点ともいえるのが「JR総連近畿地協第35回定期委員会後の緊急常任委員会」と、その場で「組織破壊攻撃を確認した」というデッチ上げです。そもそも緊急常任委員会は存在せず、次回の常任委員会の日程を決めるための打ち合わせなのです。緊急常任委員会のデッチ上げについては、本紙No.2955で明らかにしましたが、もう少し補足します。

緊急常任委員会で山本光男事務局長が総括として「渡邊発言は委員会を混乱させた組織破壊攻撃と確認する。各常任委員も確認することと提起し、全常任委員は了解した」というのが被告側の主張です。本当に提起をしたとすれば、新幹線関西地本笹田委員長、浦谷書記長は猛抗議するのが当たり前です。「全常任委員で了解」とは見え透いた嘘であることは誰でも分かります。そのデッチ上げは、「津崎文書」にも記載されていますが、「津崎文書」は未だに訂正も撤回もされていません。

また、定期委員会後の懇親会で以下のような会話がありました。

[原告ら準備書面(3)より] 「被告」とは津崎氏(下線は本紙編集者による)  
笹田：議長、渡邊の発言ですが内容に問題はないですよ。何かひっかかる場所がありましたか？  
被告：そうね、委員会の総括は次の常任委員会でやりましょう。ところで渡邊さんてどんな人なん？  
略(それぞれの組織に関する話題)  
笹田：まあ貨物と東海では実態が違うからあれやけど、お互いがんばりましょうや。  
被告：そやな。

以上の会話は、喧嘩腰ではなく、むしろ和気藹々あいあいの雰囲気です。「組織破壊を確認した」後の会話とは思えません。津崎被告が「委員会の総括」と言ったように、緊急常任委員会だとすれば、その場で委員会の総括がされているはずであり、のんきに「次の常任委員会」とは言うてはいられません。この事実1つをとってみても、被告らの嘘は誰でも分かります。